

生田緑地におけるサラサヤンマ *Sarasaeschna pryeri* (Martin) 羽化殻の記録

岩田芳美*・岩田臣生*・高橋裕**

A record of exuviae of *Sarasaeschna pryeri* (Martin) in the IkutaRyokuchi Park, Kawasaki City

Yoshimi Iwata*, Tomio Iwata* and Hiroshi Takahashi**

川崎市内のサラサヤンマ *Sarasaeschna pryeri* (Martin) についての記録は、2003年の麻生区黒川での記録(荻部ほか, 2004)、2017年の多摩区生田緑地での記録(川島ほか, 2018)と少ない。生田緑地での記録は初記録であったために川島ら(2018)は、恐らくは、他産地からの分散個体であろうと報告している。今回、筆者らは生田緑地の谷戸の木道においてサラサヤンマ羽化殻1個体を確認できた(図1)。羽化殻の確認は生田緑地での発生を示しているため報告をする。

日本のトンボ(尾園ほか, 2012)によると生息環境は、「樹林に囲まれた平地から丘陵地の低湿地。植生遷移の進んだ放棄水田で見られることも多い。」とされている。また、原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑(杉村ほか, 1999)では、サラサヤンマは主に丘陵地や低山地のハンノキやヤナギ類が疎性する湿地林に生息し、幼虫は落ち葉などに覆われた湿った地面のくぼみの水たまりの水面近くに重なっている落ち葉の間に張り付くように潜っていると記されている。

川島ら(2018)によるサラサヤンマの採集場所、今回の羽化殻の確認場所も上記のような環境である。このことは多摩丘陵の東端とはいえ、県内でも生息地が少ないサ

ラサヤンマが産卵し、ヤゴが生息できる自然環境が生田緑地に残されていることを示している。

最後にサラサヤンマ羽化殻をご同定いただいた岸一弘氏に心より感謝を申し上げます。

引用文献

- 荻部治紀・川島逸郎・岸一弘・石川一, 2004. トンボ目 Odonata. pp. 67-130, *In*: 神奈川県昆虫談話会(編), 神奈川県昆虫誌 1. 314 pp., 神奈川県昆虫談話会, 小田原
- 川島逸郎・高梨沙羅・堀内慈恵, 2018. 生田緑地およびその周辺におけるトンボ目の記録(2017年度) 一付: 2014~2017年度のトンボ相の総括. 川崎市青少年科学館紀要, (28): 12-19.
- 尾園 暁・川島逸郎・二橋 亮, 2012. ネイチャーガイド 日本のトンボ 第3版. 531pp., 文一総合出版, 東京.
- 杉村光利・石田昇三・小島圭三・石田勝義・青木司, 1999. 原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑 第1刷. 917 pp., 北海道大学図書刊行会, 札幌市.



図1. サラサヤンマ *Sarasaeschna pryeri* (Martin) の羽化殻. 多摩区枳形, 2019, V, 12, 岩田臣生(撮影)

*特定非営利活動法人 かわさき自然調査団 Kawasaki Organization for Nature Research and Conservation

**川崎市青少年科学館(かわさき^{そら}宙と緑の科学館) Kawasaki Municipal Science Museum